

肝疾患患者支援のための看護師研修会レポートの計量テキスト分析 —看護実践の内容と看護師属性（経験年数）との関連—

北山 裕子*・正木 尚彦**

Quantitative Text Analysis of Nurse Training Reports on Support for Patients with Liver Disease: Associations Between Nursing Practice and Nurses' Years of Experience

Yuko Kitayama・Naohiko Masaki

要 旨

本研究では、肝疾患患者支援における看護実践の内容と看護師の属性（経験年数）との関連を検討することを目的として、肝疾患診療連携拠点病院に所属する看護師の研修会レポート170件を計量テキスト分析により分析した。分析では、レポート内容の分類、特徴語抽出、共起ネットワーク分析、対応分析を実施した。看護実践の内容には、治療、心理・社会的支援、患者教育、療養生活支援、連携などが含まれていた。経験年数による違いは一部で示されたものの、一貫した傾向は認められず、分類内容に依拠する可能性が示唆された。今後は、質的分析により背景要因を明らかにする必要がある。

This study examined the relationship between nurses' years of experience and the content of nursing practice in liver disease consultation by analyzing 170 nurse training reports using quantitative text analysis. Analyses included content classification, extraction of characteristic terms, co-occurrence network analysis, and correspondence analysis. Nursing practice encompassed medical treatment, psychosocial care, patient education, daily life support, and collaboration. While some differences by years of experience were observed, no consistent trend emerged, suggesting that variations may depend on specific content categories. Further qualitative research is needed to clarify these factors.

【キーワード：肝疾患患者支援，看護師，計量テキスト分析，経験年数，包括的内容】

Keywords: Liver disease consultation support, Nurses, Quantitative text analysis, Years of experience, Comprehensive approach

背景

看護師を対象とした研究では、看護実践における困難や障壁などの抽出を目的とし、計量テキスト分析を用いた研究が報告されている¹⁾²⁾。また、訪問診療実習を行った医学生を対象に、その自由記述レポートを用いて記述の内容の傾向を計量テキスト分析で明らかにした研究がみられる³⁾。我々の行った先行研究では、相談員（ソーシャル

ワーカー等の社会福祉職、看護師等）を対象に課題やニーズを明らかにしたものの、医療現場で肝疾患診療に従事する看護師に特化した検討は十分に行われていない状況である⁴⁾⁵⁾。

目的

研究では、肝疾患診療連携拠点病院に所属する看護師が記載した研修会受講時レポートを対象に、計量テキスト分析を通じて、肝疾患患者支援

*鳥根大学人間科学部

**国立療養所多磨全生園 前園長、国立研究開発法人国立国際医療研究センター（現 国立健康危機管理研究機構）
肝炎・免疫研究センター 前肝炎情報センター長として本研究に関与

における看護師の実践内容を整理し、その全体像を把握するとともに、経験年数との関連を検討することを目的とする。尚、本研究は段階的研究デザインに基づき、2026年度に計量テキスト分析を行い、2026年度以降には質的分析を予定している。

対象

平成24年度から平成26年度に、当時の国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 肝炎免疫・研究センター肝炎情報センターが実施した「肝疾患診療連携拠点病院看護師向け研修会」（以降、看護師研修会）の出席に際する条件として提出を義務付けていた事前レポート、170件を分析対象とした。なお、肝炎情報センターは現在、国立健康危機管理研究機構に所属している。以降、本稿では「肝炎情報センター」と表記する。

これらのレポートは、肝炎情報センターが事前に示した看護師研修会の各テーマから、参加者が選択し、タイトルを付記し自由記述形式で作成したものである。当該期間のレポートは、参加者属性（年齢、経験年数、職位）と本文で構成されており、属性別分析を実施した。データの分析には、KH Coder を用いた⁶⁾。

方法

自由記述データに関する検討を以下の4種類の計量テキスト分析手法を用いて行った。尚、自由記述データを解釈するに際し、KH Coderの抽出語検索機能（KWIC [Key Words in Context: コンコーダンス]）を用い、各語が元の文脈（文章）の中でどのように使用されていたかを逐次確認し、形態素解析が適切に行われていない語やノイズ（紛らわしい言い回しや不要な用語）は削除した。

1) レポート内容の分類：平成24年度から平成26年度の看護師研修会のレポートをその記述内容により、3つの大項目（治療、心理・社会的支援、療養生活および連携）に分類し、さらに個々の大項目毎に出現頻度の多いテーマを抽出することで細分類を行った。尚、研修会レポートの元タイトル一覧を付録1に示す。

2) 特徴語の抽出：Jaccardの類似性測度により導き出される特徴語は各分類内容との関連が強い語を示すものであり、単なる頻出語ではなく各分類内容を特徴づける語である。値が大きい順に10語が抽出され、提示された各特徴語について検証を行った。

3) 共起ネットワーク分析：170件のレポートを分類ごとに類型化したものを共起ネットワークを

用いて分析した。共起ネットワーク分析では、描画する共起関係として上位60語を設定した後に、サブグラフ検出（random walks と modularity）を用いて、お互いに強く結びついている語のグループを見つけるといった処理を行った。170件のレポートの分類ごとの特徴について、データ中の語と語が共に出現するパターンの可視化を行った。尚、共起ネットワークにおける円の大きさは語の出現回数を示すものであるが、本研究では回数そのものを主要な解釈対象とはせず、各語の結びつきから形成される意味内容の構造を把握することを目的とした。また、図において示されている円の大きさは、各語の関係性を把握するための視覚的手がかりとして位置づけられている。尚、本稿では共起構造を視覚的に把握しやすくするため、語のまとまりを線で囲んで示した。また、最小出現数および表示語数は、各分類のデータ量や記述内容を考慮して設定しており、図ごとに設定が異なっている。

4) 対応分析：170件のレポートを分類ごとに類型化したものの全体像を対応分析を用いて分析し、2次元の散布図を作成した。対応分析では差異が顕著な語（上位60語）を使用し、原点から離れた語のみラベル表示して分析を行った。また、170件のレポートを分類ごとに、参加者の経験年数を属性として、対応分析を用いて分析した。

尚、2)～4)の分析では集計単位は文章単位とし、出現数による語の取捨選択や利用語数は内容を確認しながら設定した。また、3)、4)の分析では、出現回数や表示語数について、表示された語を確認しながら調整を行い、各段階でコロケーション統計を実施した。このため、図によって表示される語数や数値には差異が生じる場合がある。

研究における倫理的配慮

本研究では、看護師研修会レポートのデータを研究対象として利用する旨を参加者に周知し、同意を得た。データ分析に際しては、連結可能匿名化を行い、個人情報の保護に配慮した。また、データの所属先である旧国立研究開発法人国立国際医療研究センター肝炎免疫・研究センター肝炎情報センターから使用許可を得た上で実施した。

結果

1. レポート内容の分類（テーマごとの出現件数）

平成24年度から平成26年度の看護師研修会のレポートを、内容に基づき次の3つの大項目に分類し、さらに各大項目について細分類をおこなったところ、①治療に関する内容として、「イン

付録1. 研修会レポートの元タイトル一覧（平成24年度～平成26年度）
平成24年度から平成26年度に提出された看護師研修会レポート170件の元タイトルを一覧として示す。
分類ごと件数の多い順に、タイトル（内訳）は五十音順で整理している。

N=170

各タイトル (内訳)	難治性腹水関連	38件
	難治性腹水患者の看護	26
	難治性腹水患者の看護について	3
	難治性腹水患者に対する継続支援	1
	難治性腹水患者の看護（病態も含む）	1
	難治性腹水患者の看護（病態も含めて）	1
	難治性腹水患者のQOLの向上を目指す	1
	難治性腹水患者の症状緩和に対し看護でできること	1
	難治性腹水患者の生活指導と治療の継続を支えるための看護師の役割を考える	1
	難治性腹水について	1
	腹水が貯留した末期肝硬変患者の看護	1
	腹水貯留によって引き起こされる苦痛の軽減をはかる看護知識、技術を取得し実践可能なものとする	1
	連携・役割（地域・拠点・センター）	33件
	地域における拠点病院の役割	10
	肝疾患診療連携拠点病院事業における看護師の役割	7
	肝疾患相談センターから看護師に期待すること	6
	肝疾患診療拠点病院事業における看護師の役割	2
	「肝疾患診療連携拠点病院における看護師の役割」	1
	「肝疾患診療連携拠点病院における病棟看護師の役割を明らかにする」	1
	肝疾患相談センターから看護師に期待する事	1
	肝疾患相談センターから看護師に期待することに関して学びを深め、自施設内での連携に活用する	1
	専門職間のコーディネート、地域連携への介入	1
	「地域における拠点病院の役割」についての問題点	1
	地域における拠点病院の役割を理解する	1
	病棟看護師の地域医療連携に対する意識を高める	1
	メンタルケアと社会的偏見	25件
	肝疾患患者の悩みをどう聞くか	11
	肝疾患のメンタルケア	9
	肝疾患のメンタルケアについて	1
	肝疾患のメンタルケアについて一偏見差別に関しての相談対応	1
	肝疾患患者の精神的特徴を理解した精神的ケアの提供と病棟全体への普及	1
	肝疾患患者・家族の支援ができ、治療に対する継続意欲につながるような看護を学ぶ	1
	難治性腹水患者に対する症状緩和、メンタルケア	1

各タイトル (内訳)	院内連携（病棟・外来間）	20 件
	病棟と外来との院内看護師連携はうまく図られているか	5
	拠点病院内の他部門（病棟、外来、相談センター等）との連携の取り方	2
	肝疾患に対する病棟・外来間の継続看護に関する問題点	1
	協働できる職場の風土作り	1
	外来看護アシスタント・相談委員・患者会との連携	1
	外来における肝疾患患者さん	1
	拠点病院内の他の部門との連携の取り方	1
	拠点病院内の他部門との連携の取り方	1
	拠点病院内の他部門との連携の取り方～院内での連携の役割とは～	1
	現状を振り返り外来看護師として病棟との連携を考える	1
	病棟と外来との院内看護師連携に関する自己の課題	1
	病棟と外来との院内看護師連携の促進	1
	病棟と外来との院内看護師連携はうまくはかかれているか	1
	病棟と外来の院内連携	1
	病棟と外来の院内連携における自己の課題	1
	インターフェロン関連	17 件
	インターフェロン治療	7
	インターフェロン治療について	3
	インターフェロン	2
	インターフェロン治療時の副作用・体調把握と治療継続支援	1
	インターフェロン治療における病棟での役割	1
	インターフェロン治療についての知識の底上げ	1
	インターフェロン治療について理解を深める	1
	外来のインターフェロン治療患者の看護師の役割	1
	患者教育（肝臓病教室など）	16 件
	肝臓病教室への看護師としての関わり	10
	患者の不安や疑問を肝臓病教室にどう反映させるか	1
	肝臓病教室の看護師の関わり	1
	肝臓病教室の現状が把握できていない	1
	肝臓病教室を開催し継続するにあたり	1
地域住民に合った肝臓病教室の開催	1	
病棟における継続的・効果的な患者教育開催について	1	

生活支援・在宅支援（退院指導含む）		15 件	
各タイトル (内訳)	肝疾患患者の在宅医療における現状と課題	6	
	肝疾患患者の在宅医療における現状と課題（地域スタッフから拠点病院への要望）	2	
	ウイルス肝炎患者に対する看護のありかた「ウイルス肝炎患者を4側面からアセスメントし看護する」	1	
	肝疾患患者の在宅医療における現状と課題～院内でのコーディネーター役割とは～	1	
	肝疾患患者の在宅医療における現状を学ぶ	1	
	地域へ帰るために必要な支援	1	
	日常生活でも自己管理が出来るような指導、関わりを学ぶ	1	
	入退院を繰り返す患者家族への病期に合わせた早期介入について	1	
	早期退院を目指すための看護	1	
	三剤併用療法関連		4 件
	IFN3 剤併用療法の患者への効果的な取り組み	1	
	3 剤併用療法	1	
	3 剤併用療法に対する他職種との連携と肝炎助成金についての患者への情報提供	1	
	3 剤併用療法への相談支援	1	
	その他の治療関連		2 件
	肝疾患を抱える患者の生活を見据えた継続看護	1	
	病期に合わせタイムリーな関わりができ患者家族を支えることができる	1	

表1. レポート内容の分類（大項目および細項目）
看護師研修会レポートの記述内容を基に、3つの大項目および9つの細項目に分類した結果を示した。

大項目	細分類
治療に関する内容	インターフェロン関連
	三剤併用療法関連
	その他の治療関連
	難治性腹水関連
心理・社会的支援に関する内容	メンタルケアと社会的偏見
	患者教育（肝臓病教室など）
療養生活（在宅・退院支援を含む） および連携に関する内容	生活支援・在宅支援（退院指導含む）
	院内連携（病棟・外来間）
	連携・役割（地域・拠点・センター）

ターフェロン関連」（17件）、「三剤併用療法関連」（4件）、「その他の治療関連」（2件）、「難治性腹水関連」（38件）、②心理・社会的支援に関する内容として「メンタルケアと社会的偏見」（25件）、「患者教育（肝臓病教室など）」（16件）、③療養生活（在宅・退院支援を含む）および連携に関する内容として、「生活支援・在宅支援（退院指導含む）」（15件）、「院内連携（病棟・外来間）」（20件）、「連携・役割（地域・拠点・センター）」（33件）の9テーマが抽出された（表1）。これら9

テーマを多い順に示したものが図1である。

2. テキストデータの特徴語分析

看護師研修会レポート（N=170）を細分類ごとに特徴的に出現する10語を抽出し分析を行った。表2の数値はJaccardの類似性測度を示しており、この値が大きい順に各分類内容を特徴づける10語が選択される。尚、Jaccardの類似性測度は0から1までの値をとり、関連が強いほど1に近づくものである。

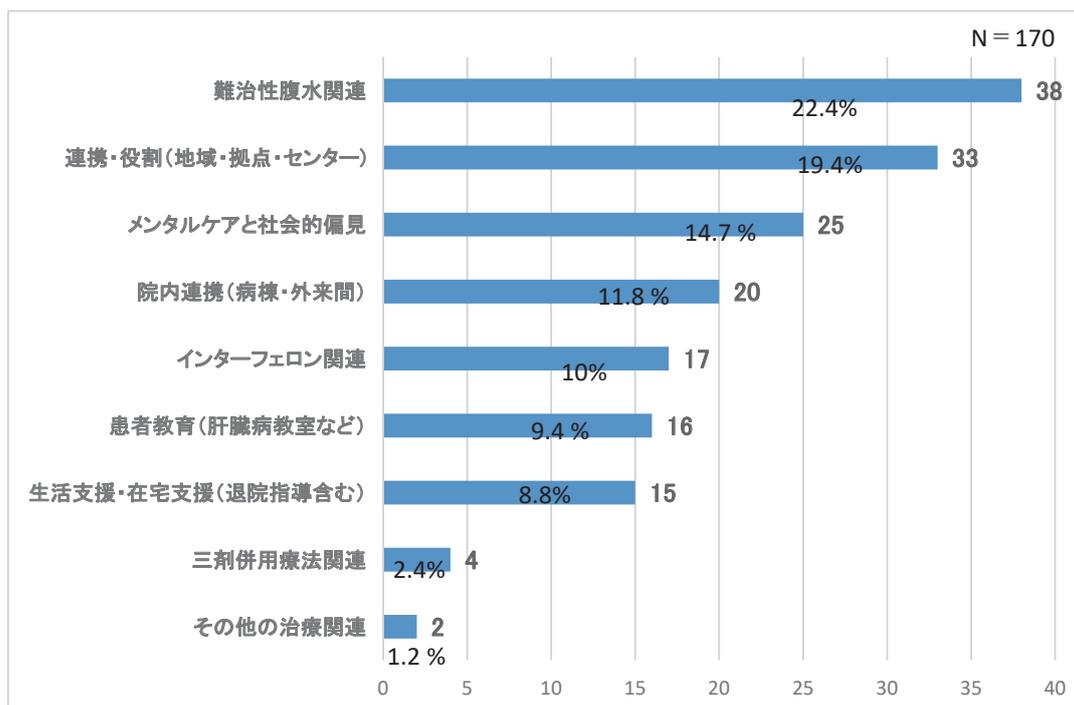


図 1. 看護師研修会レポートのテーマ別出現件数
平成 24 年度から平成 26 年度に提出された看護師研修会レポート 170 件を対象に、
内容分類によって抽出された 9 テーマの出現件数を多い順に示した。

表 2. 看護師研修会レポート内容分類別の特徴語
看護師研修会レポートを分類ごとに分析し、各分類を特徴づける語を抽出した結果を示したものである。
数値は Jaccard の類似性測度を表す。

難治性腹水関連	連携・役割(地域・拠点・センター)	メンタルケアと社会的偏見	院内連携(病棟・外来間)	インターフェロン関連
腹水 0.2369	肝疾患 0.1630	患者 0.1453	外来 0.2296	副作用 0.1444
患者 0.2149	連携 0.1496	治療 0.1098	病棟 0.1777	治療 0.1136
苦痛 0.1212	看護師 0.1339	肝疾患 0.0940	看護師 0.1317	インターフェロン治療 0.1074
腹部膨満感 0.1146	相談 0.1087	思い 0.0880	連携 0.1182	インターフェロン 0.1055
看護 0.0912	病棟 0.1052	家族 0.0758	患者 0.0988	入院 0.0615
入院 0.0861	地域 0.0963	悩み 0.0753	退院 0.0954	導入 0.0604
低下 0.0826	肝炎 0.0946	不安 0.0709	看護 0.0884	知識 0.0516
食事 0.0785	活動 0.0871	自分 0.0639	必要 0.0798	症状 0.0497
症状 0.0778	外来 0.0826	人 0.0612	継続看護 0.0769	指導 0.0467
制限 0.0705	研修 0.0801	聞く 0.0611	治療 0.0762	継続 0.0460
患者教育(肝臓病教室など)	生活援助・在宅支援(退院指導含む)	三剤併用療法関連	その他治療関連	
肝臓病教室 0.2436	家族 0.0824	助成 0.1029	病期 0.0816	
看護師 0.0899	在宅医療 0.0800	三剤併用療法 0.1000	患者家族 0.0755	
開催 0.0858	地域 0.0725	皮膚 0.0822	施行 0.0741	
日常生活 0.0792	支援 0.0704	ステロイド 0.0784	移行 0.0727	
講義 0.0717	患者 0.0696	結果 0.0645	入退院 0.0658	
不安 0.0692	肝炎 0.0651	テラビック 0.0577	認める 0.0638	
医師 0.0681	肝疾患 0.0648	中止 0.0577	生きる 0.0588	
内容 0.0652	入院 0.0618	消化器内科 0.0569	セルフコントロール 0.0536	
情報 0.0636	必要 0.0600	副作用 0.0510	進行 0.0506	
疑問 0.0601	現状 0.0594	窓口 0.0508	視点 0.0500	

難治性腹水関連では、「腹水」(Jaccard=0.2369)、「患者」(0.2149)、「苦痛」(0.1212)、「腹部膨満感」(0.1146)、「看護」(0.0912)、「入院」(0.0861)などが、特徴語として抽出された。

連携・役割(地域・拠点・センター)では、「肝疾患」(Jaccard=0.1630)、「連携」(0.1496)、「看護師」(0.1339)、「相談」(0.1087)、「病棟」(0.1052)、「地域」(0.0963)などが、特徴語として抽出された。

メンタルケアと社会的偏見では、「患者」(Jaccard=0.1453)、「治療」(0.1098)、「肝疾患」(0.0940)、「思い」(0.0880)、「家族」(0.0758)、「悩み」(0.0753)などが、特徴語として抽出された。

院内連携(病棟・外来間)では、「外来」(Jaccard=0.2296)、「病棟」(0.1777)、「看護師」(0.1317)、「連携」(0.1182)、「患者」(0.0988)、「退院」(0.0954)が、特徴語として抽出された。

インターフェロン関連では、「副作用」(Jaccard=0.1444)、「治療」(0.1136)、「インターフェロン治療」(0.1074)、「インターフェロン」(0.1055)、「入院」(0.0615)、「導入」(0.0604)などが、特徴語として抽出された。

患者教育(肝臓病教室など)では、「肝臓病教室」(Jaccard=0.2436)、「看護師」(0.0899)、「開催」(0.0858)、「日常生活」(0.0792)、「講義」(0.0717)、「不安」(0.0692)などが、特徴語として抽出された。

生活支援・在宅支援(退院指導含む)では、「家族」(Jaccard=0.0824)、「在宅医療」(0.0800)、「地域」(0.0725)、「支援」(0.0704)、「患者」(0.0696)、「肝炎」(0.0651)などが、特徴語として抽出された。

三剤併用療法関連では、「助成」(Jaccard=0.1029)、「三剤併用療法」(0.1000)、「皮膚」(0.0822)、「ステロイド」(0.0784)、「結果」(0.0645)、「テラビック」(0.0577)などが、特徴語として抽出された。

その他の治療関連では、「病期」(Jaccard=0.0816)、「患者家族」(0.0755)、「施行」(0.0741)、「移行」(0.0727)、「入退院」(0.0658)、「認める」(0.0638)などが、特徴語として抽出された。

3. 共起ネットワーク分析

レポート内容の分類ごとに、関連が強い語の出現パターン、即ち語と語が共に出現する共起の程度を可視化した(図2~図10)。その結果、語の共起構造上に複数の語のまとまりが形成されていることが判明した。以下、内容分類の多い順に検

図2~図10は共起ネットワーク図である。共起ネットワーク図は、計量テキスト分析により、語と語が同一文中に共に出現する関係を可視化したものである。円(ノード)は出現語を示し、線は語同士の共起関係を表している。

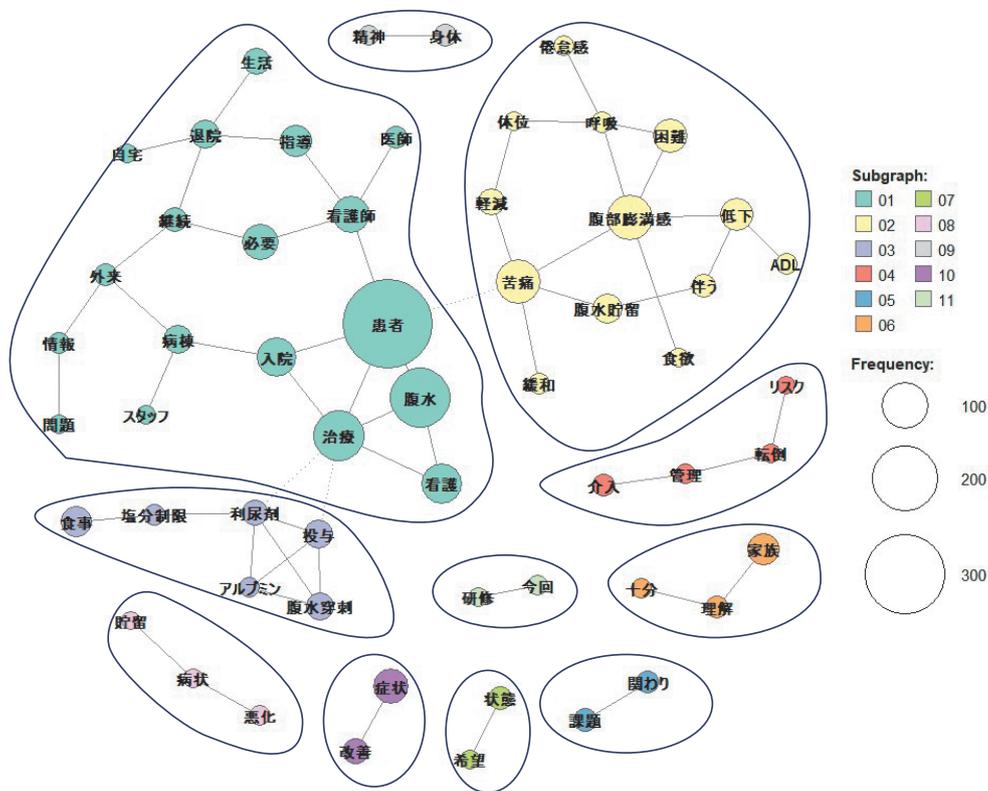


図2. 「難治性腹水関連」における共起ネットワーク図
「難治性腹水関連」に分類されたレポート記述を対象に、語と語の共起関係を図示したものである。

証する。

「難治性腹水関連」(38件)では、「腹水」「腹水貯留」「腹部膨満感」「利尿剤」「アルブミン」「腹水穿刺」などの語が含まれていた(図2)。

「連携・役割(地域・拠点・センター)」(33件)では、「連携」「地域」「拠点病院」「院内」「多職種」「相談」などの語が含まれていた(図3)。

「メンタルケアと社会的偏見」(25件)では、「偏見」「差別」「不安」「悩み」「精神」「ケア」などの語が含まれていた(図4)。

「院内連携(病棟・外来間)」(20件)では、「病棟」「外来」「院内」「部署」「外来受診」「連携」などの語が含まれていた(図5)。

「インターフェロン関連」(17件)では、「インターフェロン治療」「副作用」「発熱」「皮膚」「医療費」「助成」などの語が含まれていた(図6)。

「患者教育(肝臓病教室など)」(16件)では、「肝臓病教室」「講義」「参加者」「栄養士」「薬剤師」「指導」などの語が含まれていた(図7)。

「生活支援・在宅支援(退院指導含む)」(15件)では、「在宅医療」「介護」「食事」「制限」「外泊」「家族」などの語が含まれていた(図8)。

「三剤併用療法関連」(4件)では、「三剤併用療法」「ペグインターフェロン」「テラプレビル」「テラビック」などの語が含まれていた(図9)。

「その他の治療関連」(2件)では、「生き方」「自宅」「仕事」「入退院」「癌」「肝硬変」などの語が含まれていた(図10)。

4. 対応分析(全体像)

平成24年度から平成26年度のレポートのテーマ内容(9細分類)を対象に、それらの関係性を散布図として示した(図11)。対応分析では、原点(0,0)付近に布置される分類ほど出現語のパターン差が小さく、原点から離れて布置される分類ほど、他分類との相対的な違いが大きいことを示している⁷⁾。対応分析の結果から、成分1および成分2に基づく分類の配置は、次のような特徴を示していた。「生活支援・在宅支援(退院指導含む)」は、原点付近に布置されていた。一方、「メンタルケアと社会的偏見」および「院内連携(病棟・外来間)」は、原点から一定の距離を保って布置されていた。また、「連携・役割(地域・拠点・センター)」はこれらよりも原点から離れた位置に布置され、「インターフェロン関連」、「難治性腹水関連」および「三剤併用療法関連」は、原点から比較的離れた位置に布置されていた。「患者教育(肝臓病教室など)」は、原点からより離れた位置に布置されていた。

個別に見ると、「インターフェロン関連」、「三剤併用療法」、「院内連携(病棟・外来間)」では、「インターフェロン治療」、「インターフェロン」、

「副作用」、「皮膚」のような語が近くに布置されていた。「連携・役割(地域・拠点・センター)」、「メンタルケアと社会的偏見」では、「悩み」、「不安」、「聞く」、「病気」、「日常生活」のような語が近くに布置されていた。また、「患者教育(肝臓病教室など)」では、「肝臓病教室」、「疑問」の語が、「難治性腹水関連」では、「腹水貯留」、「腹水穿刺」、「腹部膨満感」、「苦痛」などの語が近くに布置されていた。尚、図11の成分1と成分2の累積寄与率は、58.1%であった。

5. 対応分析(属性:経験年数)

平成24年度から平成26年度の看護師研修会レポートを対象に、各分類(9分類)の経験年数を属性(図12)とした対応分析を行い、分類ごとの配置および語の分布状況を確認した(図13～図21)。提示された語に関しては、コロケーション統計を用い、関連語の抽出を行いながら内容を確認した。

「難治性腹水関連」(38件)では、「不明」を除く各経験年数区分は右方向に布置されていた。「0—10年未満」、「10—20年未満」は原点付近に布置されていた。一方、「20—30年未満」は原点から離れた位置にあり「問題」「希望」の語が見られた(図13)。

「連携・役割(地域・拠点・センター)」(33件)では、「10—20年未満」は原点付近に布置されていた。「0—10年未満」も比較的近い位置に布置されており、両者の距離差は小さかった。一方、「20—30年未満」は原点から離れた左方向に布置されていた。原点から離れた位置の周辺には、「医療従事者」、「参加」、「肝臓病教室」の語が見られた。「30年以上」は原点から離れた位置に布置されており、その周辺には「担当」および「療法」の語が見られた(図14)。

「メンタルケアと社会的偏見」(25件)では、「0—10年未満」は原点付近に布置されていた。「20—30年未満」は原点から離れた位置に布置され、「支援」「話」「学ぶ」「感染」の語が見られた。「10—20年未満」も原点から相対的に離れた位置に布置し、「偏見」「差別」が見られた。また、「30年以上」は原点から離れた位置に布置され、「情報」「参加」が見られた(図15)。

「院内連携(病棟・外来間)」(20件)では、「10—20年未満」は原点付近に布置されていた。「0—10年未満」および「20—30年未満」は原点から相対的に離れた位置に布置されていた。「10—20年未満」は「情報共有」「院内」「現在」「家族」の語が見られた。「0—10年未満」では、「確認」の語が、「20—30年未満」は「専門」「指導」「相談」の語が見られた。「30年以上」では、「拠点病院」の語が見られた(図16)。

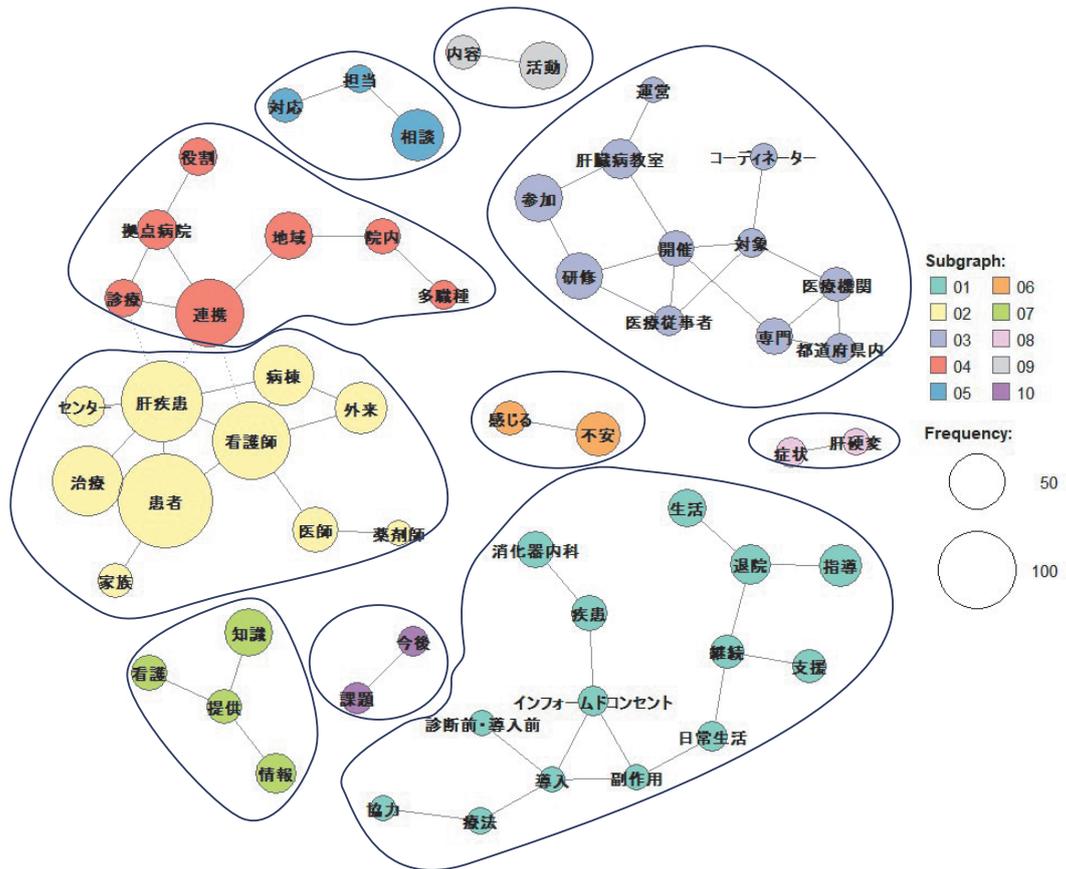


図3. 「連携・役割 (地域・拠点・センター)」における共起ネットワーク図
 「連携・役割 (地域・拠点・センター)」に分類された記述を対象に、語と語の共起関係を図示したものである。

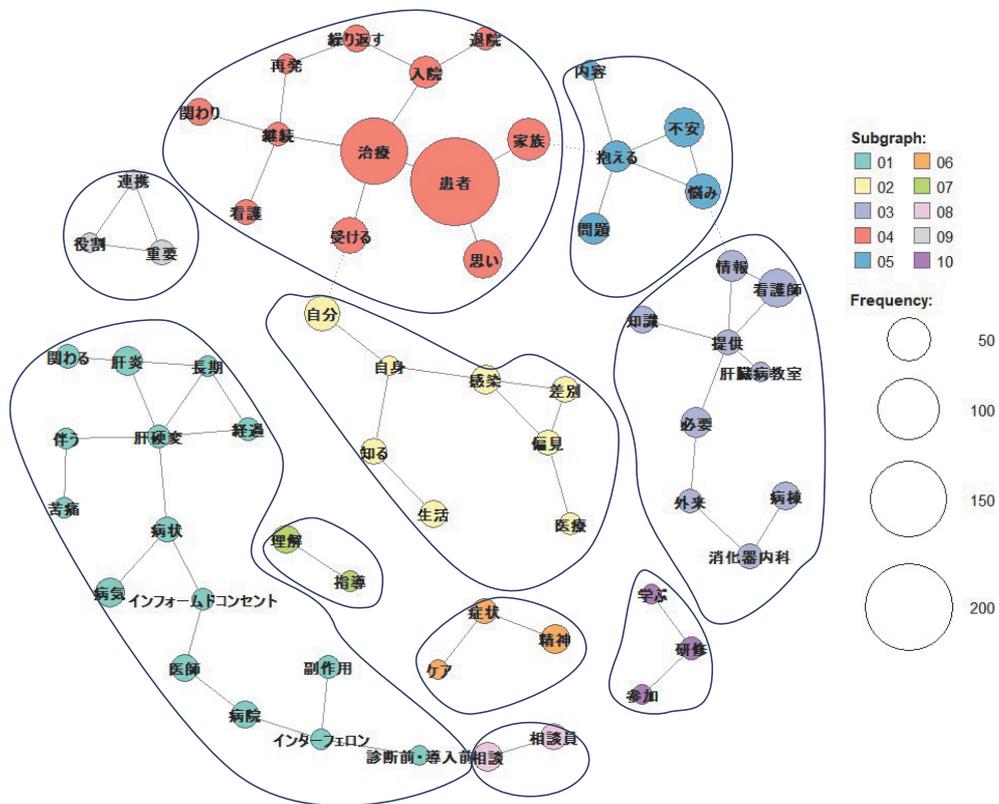


図4. 「メンタルケアと社会的偏見」における共起ネットワーク図
 「メンタルケアと社会的偏見」に分類された記述を対象に、語と語の共起関係を図示したものである。

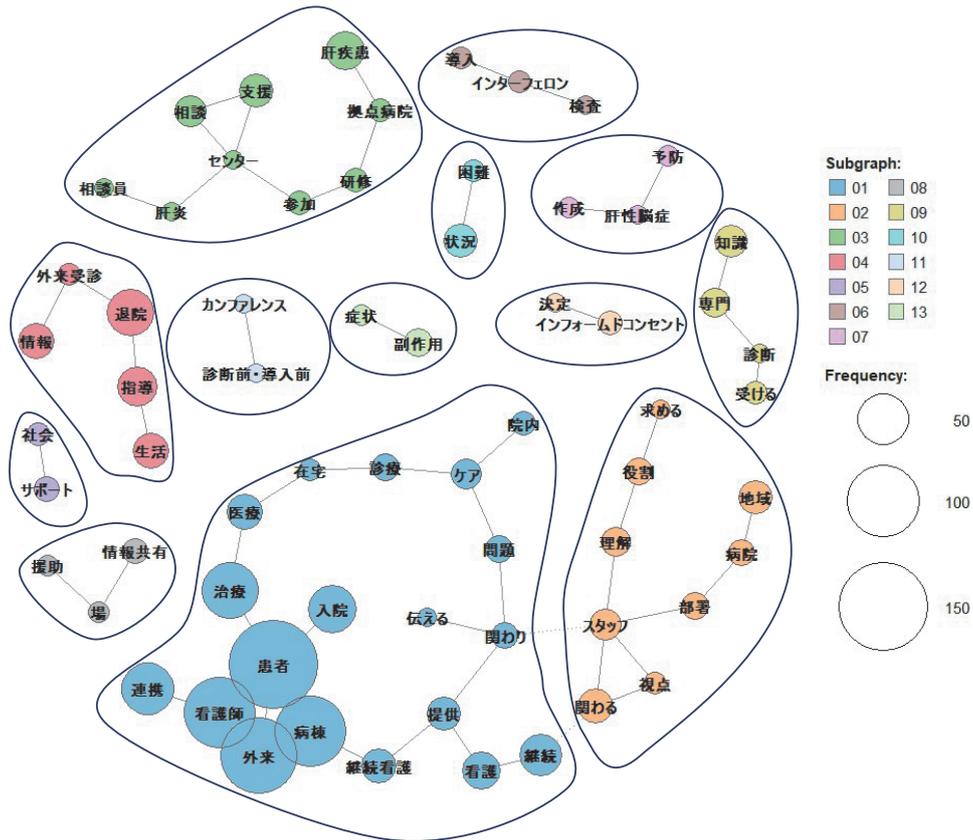


図5. 「院内連携（病棟・外来間）」における共起ネットワーク図
「院内連携（病棟・外来間）」に分類された記述を対象に、語と語の共起関係を図示したものである。

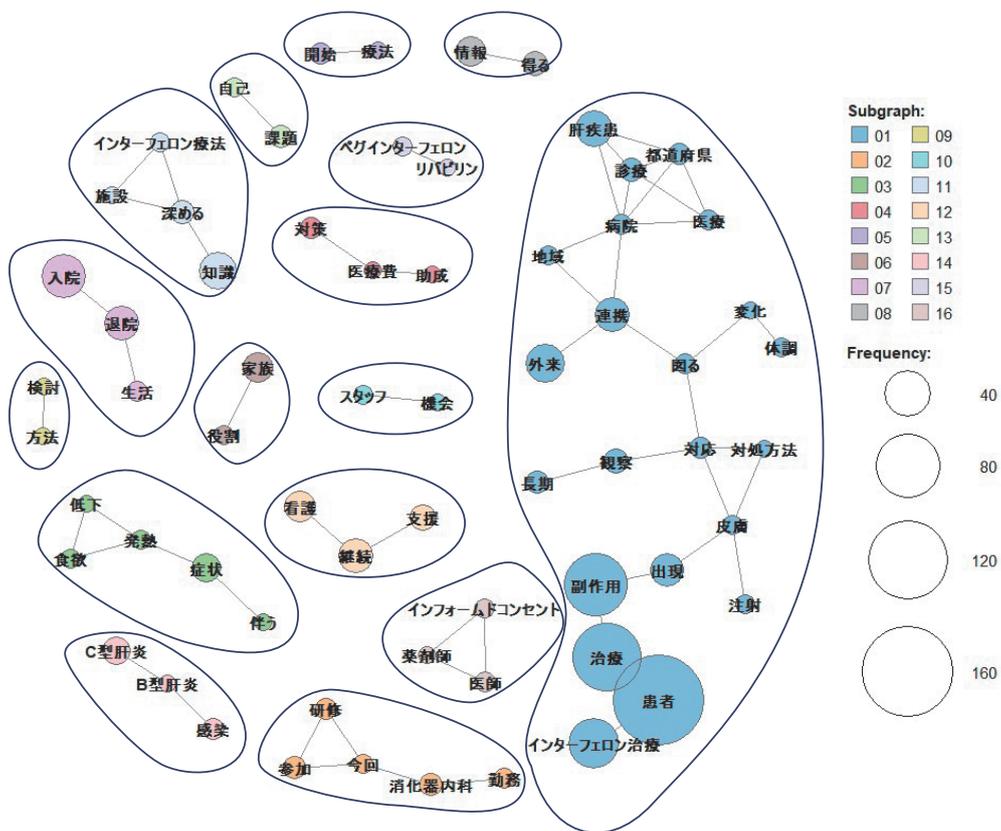


図6. 「インターフェロン関連」における共起ネットワーク図
「インターフェロン関連」に分類された記述を対象に、語と語の共起関係を図示したものである。

図 11、図 13～図 21 は対応分析による散布図である。対応分析は、分類および語の出現傾向の関係性を 2 次元空間に配置する手法である。点間の距離が近いほど、語や分類の出現パターンが近いことを示している。

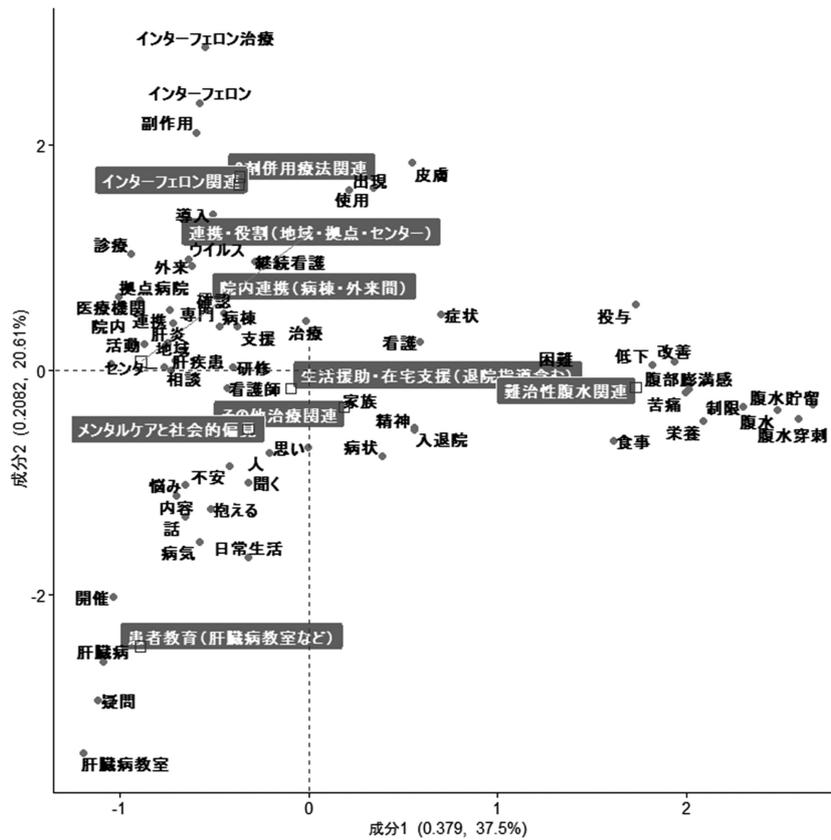


図 11. レポート内容 9 分類の対応分析散布図 (全体)
看護師研修会レポートの 9 分類について、語の出現パターンに基づく対応分析結果を散布図として示した。

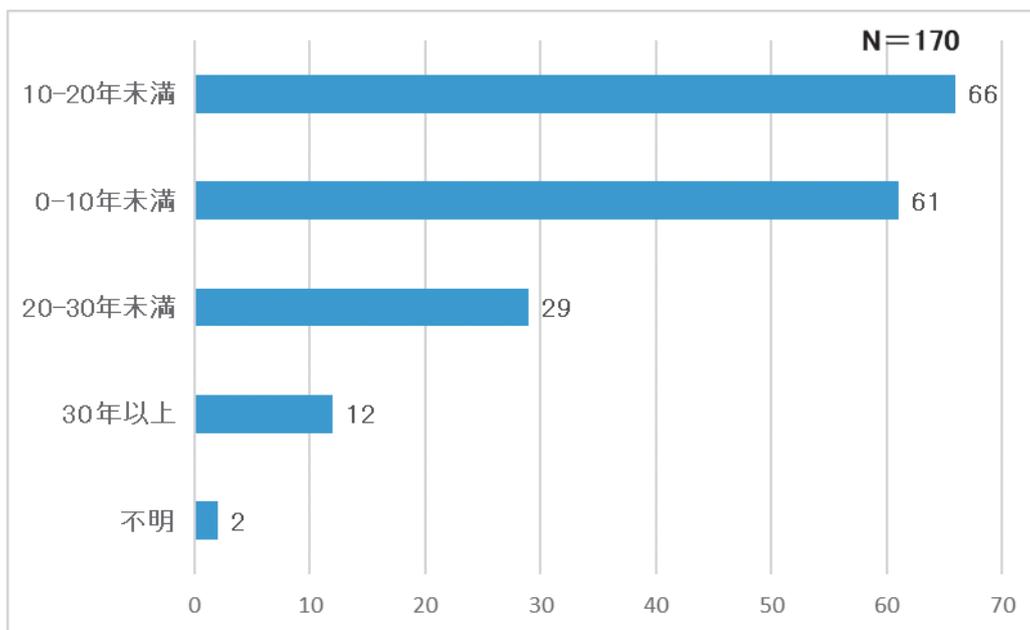


図 12. 看護師の経験年数分布
分析対象とした看護師 170 名の経験年数区分を示したものである。

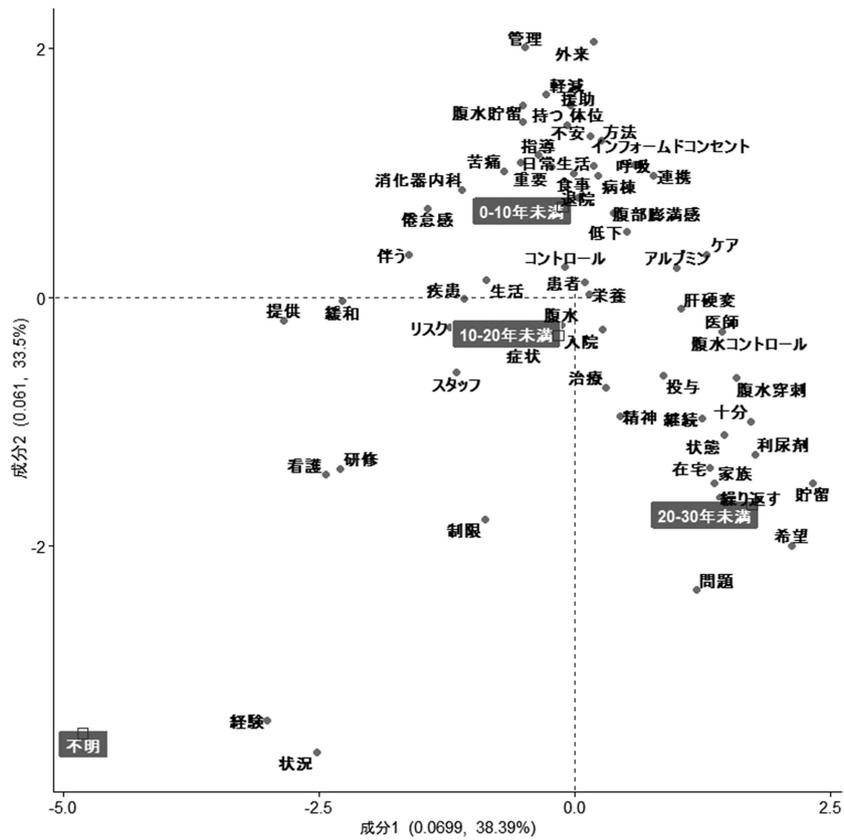


図 13. 「難治性腹水関連」と経験年数の対応分析散布図
「難治性腹水関連」に分類された記述について、語と経験年数区分との関係を対応分析により示した。

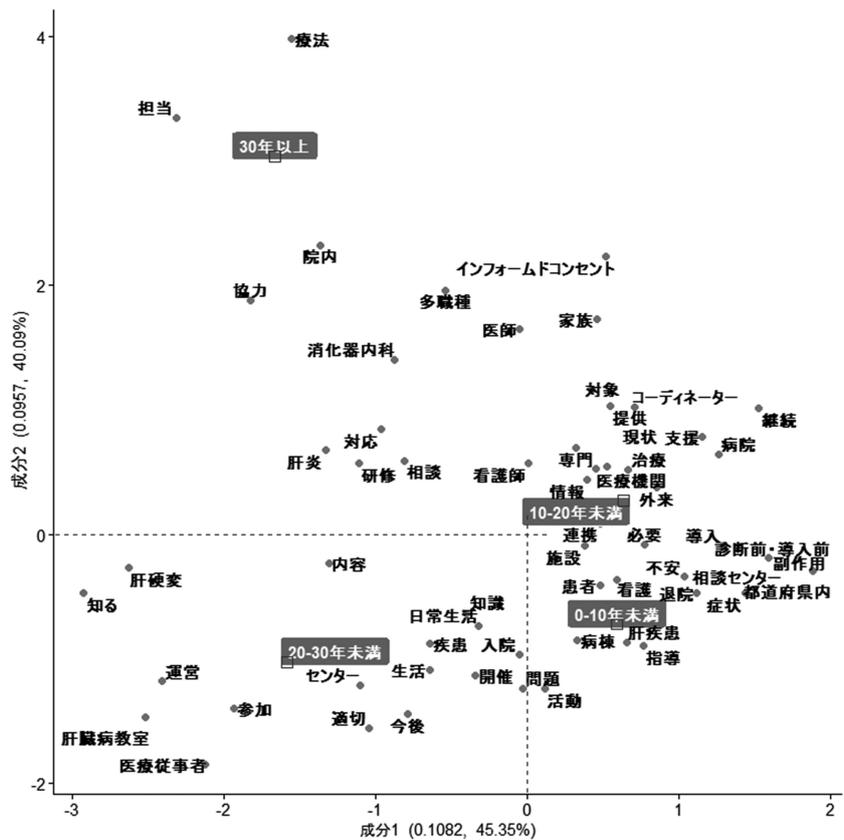


図 14. 「連携・役割 (地域・拠点・センター)」と経験年数の対応分析散布図
「連携・役割 (地域・拠点・センター)」に分類された記述について、語と経験年数区分との関係を対応分析により示した。

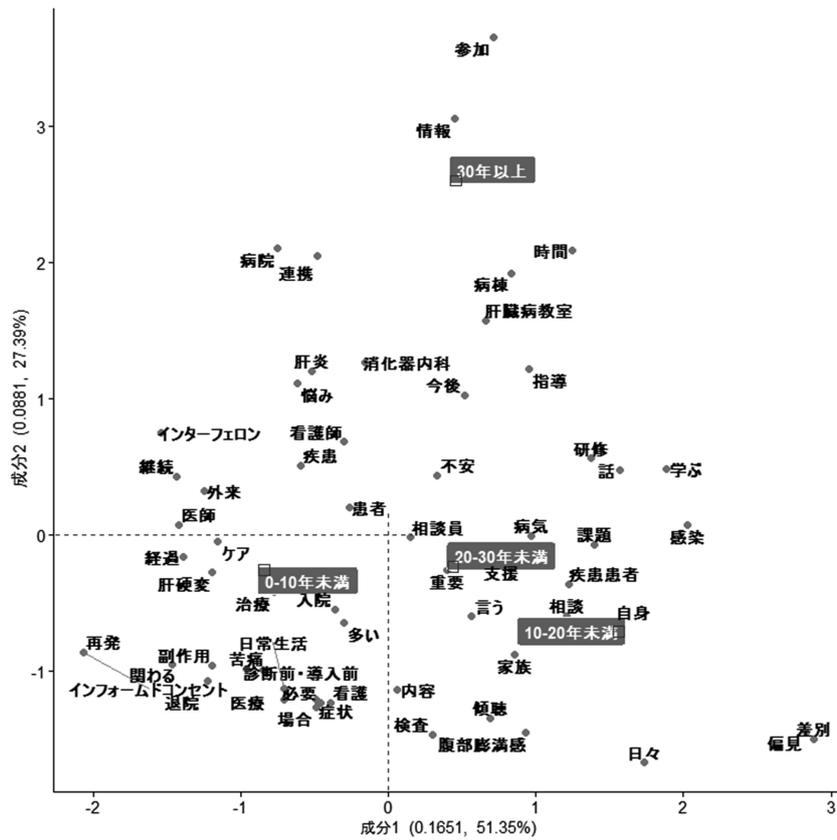


図 15. 「メンタルケアと社会的偏見」と経験年数の対応分析散布図
 「メンタルケアと社会的偏見」に分類された記述について、語と経験年数区分との関係を対応分析により示した。

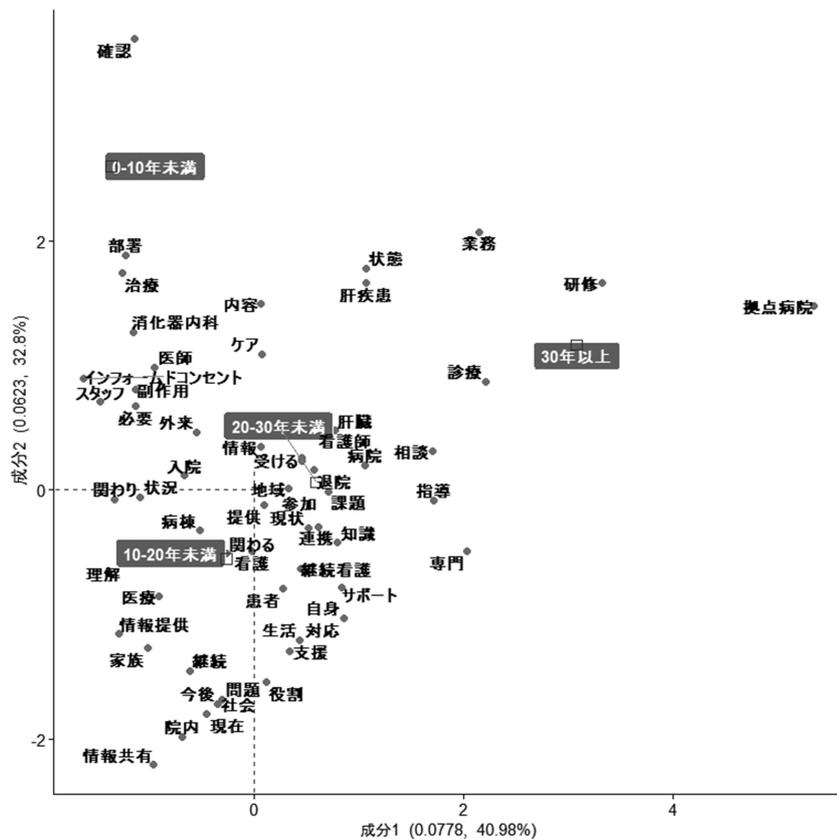


図 16. 「院内連携（病棟・外来間）」と経験年数の対応分析散布図
 「院内連携（病棟・外来間）」に分類された記述について、語と経験年数区分との関係を対応分析により示した。

「インターフェロン関連」(17件)では、「不明」を除くと、「0—10年未満」は原点付近に布置されていた。他の経験年数区分は、原点から相対的に離れた位置に布置されていた。原点付近には、「感染」および「作成」の語が見られた。「10—20年未満」では、「体調」「面談」の語が「30年以上」では、「相談」の語が見られた(図17)。

「患者教育(肝臓病教室など)」(16件)では、「0—10年未満」は原点付近に布置されていた。「10—20年未満」および「20—30年未満」は原点から離れた位置に布置されていた。「10—20年未満」は、「肝疾患」「情報提供」の語が、「20—30年未満」は、「医療者」「スタッフ」の語が見られた(図18)。

「生活支援・在宅支援(退院指導含む)」(15件)では、「10—20年未満」は原点付近に布置されていた。「0—10年未満」も近接して布置されており、両者の明確な違いを指摘するほどの差は見られなかった。「20—30年未満」は原点から離れた位置に布置されており、「肝臓」「進行」「外泊」の語が見られた。「30年以上」は原点から離れた左下方向に布置され「肝炎相談」の語が見られた(図19)。

「三剤併用療法関連」(4件)では、「0—10年未満」は原点付近に布置され、「皮膚科」「助成

金」「消化器内科」の語が見られた。「10—20年未満」および「20—30年未満」は原点から離れた位置に布置され、それぞれ、「医療機関」「症状」の語が、「電子カルテ」の語が見られた(図20)。

「その他の治療関連」(2件)では、「0—10年未満」と「10—20年未満」は原点付近に布置されており、両者の距離差は小さかった。「0—10年未満」は、「生活」「自宅」「視点」の語が見られ、「10—20年未満」は「病状」「病気」「患者家族」の語が見られた(図21)。

考察

本研究では、分析対象期間(平成24年度～平成26年度)に出現が確認された9分類を対象に、特徴語分析、共起ネットワーク分析、対応分析の結果を踏まえ、看護師研修会レポートの記述内容について検討した。

分類別にみると、「難治性腹水関連」では、治療や症状への対応に加え、退院後の生活や家族への支援、病棟・外来間の連携など、医療と生活の双方に関わる内容が記されていた。「連携・役割(地域・拠点・センター)」および「院内連携(病棟・外来間)」では、看護師が医療機関内外に

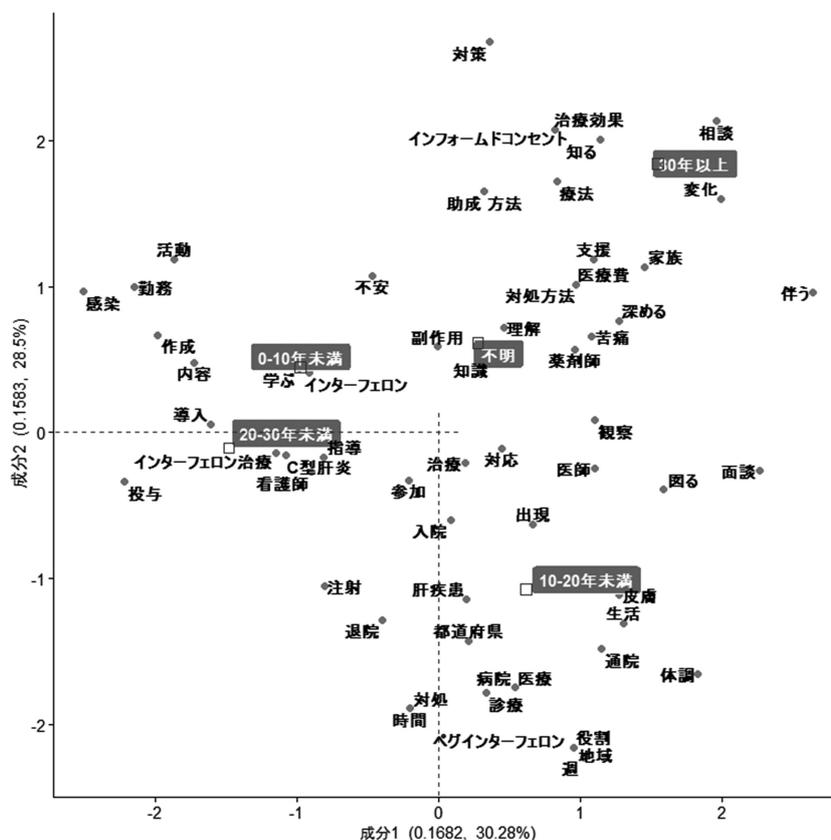


図17. 「インターフェロン関連」と経験年数の対応分析散布図
「インターフェロン関連」に分類された記述について、語と経験年数区分との関係を対応分析により示した。

において果たす役割、機能、多職種や地域との連携、相談対応や情報提供に関する内容が多く見られた。また、「メンタルケアと社会的偏見」では、疾患や治療に伴う不安や精神的苦痛、社会的偏見に対する患者・家族の思いを踏まえた対応や、相談支援、啓発の必要性が示されていた。

「患者教育（肝臓病教室など）」では、患者の不安や疑問を軽減するための支援や、患者同士および医療者との情報共有の場としての役割が述べられていた。「生活支援・在宅支援（退院指導含む）」では、入退院を繰り返す患者に対する生活管理や自己管理、在宅療養を見据えた支援、家族を含めた関わりについての記述が中心であった。また、「インターフェロン関連」「三剤併用療法関連」「その他の治療関連」では、治療内容や副作用への対応に加え、治療に対する理解や継続的な関わり、医療費助成、退院後の生活支援などが記されていた。

これらの分類を前提に経験年数を属性として分析を行い、記述内容の現れ方について検討した。その結果、経験年数0～10年未満では、原点付近に布置されることが多く、比較的一般的な語を中心とした記述傾向が認められた。10～20年未満および20～30年未満では、各分類により配置の方向や距離が異なっており、経験年数による一貫した傾向を明確に指摘するには至らなかった。その一方で、30年以上では、患者教育、研修、啓発、相談体制などに関する語と結びつく内容が見られた。経験年数による違いは、一部の分類において示されるものの、その現れ方は必ずしも同じではなく、分類内容に拠っている可能性が示唆された。しかしながら、経験年数が30年以上のベテランの看護師においては患者教育、研修、啓発、相談体制など、つまり、患者への支援体制の構築に結びつく語が見られたことは十分に理解しうる結果である。平成期の肝炎治療は、インターフェロンを中心とした副作用の強い治療が主流であり、経験年数の長い看護師は、インターフェロン時代の治療経過や難治性腹水を抱える患者に日常的に接してきた。そのため、患者の治療継続困難の背景を含めた深い問題意識が形成され、研修会レポートにも反映されやすかったのではないかと推察される。先行研究においてもインターフェロン時代の治療は副作用負荷が高く、治療中断の独立要因として抑うつ傾向と副作用の重症度が報告されており、この歴史的な文脈を踏まえれば長年の実践を有するベテラン看護師ほど教育・啓発・相談等の「患者支援体制」への関心を持つに至った可能性が高いことは妥当性がある⁸⁾。

本研究での看護師研修会レポートの記述内容には、治療に関する医療的内容に加え、患者の日常生活、患者および家族が抱える心理的・社会的課

題、看護師の役割、院内外の連携や相談体制まで多岐にわたる内容が含まれていた。すなわち、看護師による肝疾患患者支援は、単一の治療場面に限定されるものではなく、療養生活全体や社会的な文脈を含む幅広い内容に及んでいることが確認された。この点は、前報で示した看護師の研修会レポートは、「医療、生活・社会、精神・心理的内容、教育・啓発、連携・体制・機能」などの複数の側面が重層的に関わり合っている点とも一致しており、今後の検討において重要な視点を提供するものと考え⁹⁾。

本研究は、平成24年度～平成26年度の看護師研修会レポートにおける記述内容を整理した基礎的資料であると同時に、経験年数という属性の視点を加えることで、看護師の対応内容の現れ方が一様ではないことを改めて示した点に意義がある。また、記述内容には医療に関する内容だけではなく、患者の生活面への視点も含まれており、看護師が幅広い領域に対応している実態が確認された。こうした多様な内容は、専門職間の役割分担や連携のあり方を検討する上で、一つの視点を提供するものといえる。尚、本領域において、自由記述内容と経験年数の関連を計量テキスト分析によって検討した研究は現時点ではほとんど見当たらず、本研究はその点でも一定の価値を有すると考える。一方で、本研究はデータ収集時点から一定の時間が経過していることによる医療状況の変化、分類によっては該当するレポート数が少ないことから、語の配置や出現傾向の解釈には限界があった。この点について本研究では、まず計量テキスト分析によって記述内容の傾向を整理し、その後に質的研究を行う二段階デザインを採用しており、今後の質的検討によって文脈や背景の詳細を補う必要がある。

近年、いわゆる相談者の「生活問題」への対応が求められる場面が増える中で¹⁰⁾、医療の現場において、看護師が生活の視点を含む実践に直面するケースが散見される。しかし、これは、看護が生活領域全体を担うことを意味するのではなく、医療と福祉の重なる領域において、それぞれの専門性を生かしながら役割を分担し、どのように協力・連携を構築していくかが課題となっている。本研究の結果は、この医療と福祉の重なる領域における実践上の課題を検討する上でも重要な示唆を与えるものである。

結語

看護師研修会レポートを計量テキスト分析により検討した結果、看護実践内容の全体像を整理するとともに、経験年数との関連性については、一部の分類で違いはみられるものの、一貫した傾向

は指摘されず、分類内容に依拠する可能性が示唆された。今後は、質的分析を併用することで、より詳細な検討を行うことが重要である。

(文献)

- ¹ 田中聡美, 布施淳子. 病院に勤務する看護師の職務に対する幸福感の認識. 日本看護研究学会雑誌. 2022; 45(1): 105-120.
- ² 石徹白しのぶ, 山田 忍. がん患者へのアドバンス・ケア・プランニングを行う上でリンクナースが感じる障壁の検討. 日本看護研究学会雑誌. 2024; 47(2): 175-187.
- ³ 小野拓哉, 石川元直, 安井佑, 佐倉宏. 訪問診療実習を通して得た医学生の学びの解析—KH Coder によるテキストマイニングから—. 東京女子医科大学雑誌. 2021; 91(3): 184-190.
- ⁴ 北山裕子, 正木尚彦. 肝疾患相談・支援センター相談員研修会のプログラム開発に向けて—研修会参加者の課題より—. 肝臓 2017; 58: 269-279.
- ⁵ 北山裕子, 正木尚彦. 肝疾患相談・支援センター相談員研修会のプログラム開発に向けて (続報) —研修会参加者のニーズに関する検討—. 肝臓 2018; 59(12): 269-279.
- ⁶ 樋口耕一. テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—. 理論と方法. 2004; 19: 101-115.
- ⁷ 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析 第2版—内容分析の継承と発展を目指して—. 京都: ナカニシヤ出版; 2020.
- ⁸ 巴山玉蓮, 古屋洋子, 岡本知子, 畠山義子, 望月美鶴, 小林美雪, 城戸口親史, 前澤美代子, 仲沢富枝, 廣瀬雄一, 榎本信幸, 坂本穰, 星且二. C型慢性肝炎患者におけるインターフェロン療法の中絶に関連する要因と継続支援. 山梨県立看護大学短期大学部紀要. 2005; 11(2): 15-24.
- ⁹ 北山裕子, 正木尚彦. 肝疾患患者支援のための看護師研修会レポートの計量テキスト分析—看護における実践内容の全体像の整理— (論文投稿中). 島根大学社会福祉論集, 第10号, 島根大学人間科学部福祉社会教室, 2026.
- ¹⁰ 公益社団法人日本看護協会. 2025年に向けた看護の挑戦—看護の将来ビジョン—いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護—. 2015.